

研究課題名	NAFL、NASH、B型およびC型ウイルス性肝硬変の肝におけるPin1発現量の検討
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科医化学 教授 浅野 知一郎
研究期間	2021年8月20日(倫理委員会承認後)～2023年3月31日
対象者	2010年4月から2021年6月の間に、広島大学病院で肝の生検を受けられ、正常肝あるいはNAFL(非アルコール性脂肪肝)、NASH(非アルコール性脂肪肝炎)、B型およびC型ウイルス性肝硬変と診断された患者さん。
意義・目的	

私達が、マウスを用いて研究を行ったところ、NAFLやNASHの発症にはPin1と名付けられた酵素の増加が重要な働きをしていることが強く示唆されました。しかし、実際にヒトのNAFLやNASHの肝においてPin1量が上昇しているかは明らかではありません。ヒトでもNAFLやNASHでPin1量が顕著に増加していることを確認できれば、Pin1を阻害する治療方法を開発することの科学的根拠が明確にでき、新しい治療方法の開発につながる可能性が考えられます。

それに加え、Pin1は、B型肝炎やC型肝炎ウイルスの増殖も促進するという報告があります。ただ、これらの研究は、培養細胞で行われたものであり、B型肝炎やC型肝炎が感染したヒトの肝臓で、Pin1の発現量が変化しているか否かを検討した報告はありません。もしPin1が顕著に増加していて、B型あるいはC型肝炎ウイルスの増殖に寄与しているなら、Pin1を阻害することで、これらに対する治療効果を高められる可能性も考えられます。以上の意義を考えて、この研究を計画しました。

方法

本研究は、保存してある肝の生検サンプルと、診療録(カルテ)情報を調査して行います。カルテから使用する内容は以下の項目です。

①疾患(NAFL、NASH、B型肝炎やC型肝炎の他、合併する疾患名(糖尿病、脂質代謝異常など))、②年齢、性別、身長、体重、BMI、③採血データ(末梢血液一般(CBC)、プロトロンビン時間、活性化部分トロンボプラスチン時間、血液生化学検査(総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、直接ビリルビン、GOT、GPT、 γ -GTP、CRP、中性脂肪、総コレステロール、クレアチニン、コリンエステラーゼ、アンモニア、HbA1c、グルコース)

(個人を特定可能な情報は解析に用いません)

共同研究機関

なし。

試料・情報の管理責任者

広島大学大学院医系科学研究科医化学 教授 浅野 知一郎

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形

で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5135

広島大学大学院医系科学研究科医化学 教授 浅野 知一郎

研究機関：広島大学